# 初めてのインドアバレー線審

インドア準備資料 — FIVB 2025–2028、USAV注記は別記。公式研修・資格ではありません。

## 最初のサーブ前

初めての担当だと主審に伝えます。適用規則と相談相手を確認し、必要な地域の研修を先に受けてください。

立つ場所、担当ライン、アンテナとサービスゾーンの担当を示してもらいます。見えなかった合図と、合図を保つ時間も確認します。

支給された旗でイン、アウト、タッチ、判定不能を練習します。電話をしまい、視界と安全に避ける空間を確認します。

## 立ち位置

線審2人のFIVB配置では、各審判の右手側に近い対角のコーナーを使い、隣接するエンドラインとサイドラインを担当します。4人なら各自の指定ラインを担当します。観客に合わせて場所を選ばず、審判に現場で示してもらってください。

コートの外で、サーバーやボールを追う選手を妨げない位置に立ちます。必要なら安全に動き、担当の視界へ戻ります。ライン上に立つ、見やすくするためラリーに入る、カメラや審判を遮ることは避けます。

## 旗の合図5つ

ボールが担当ラインかコートに接地: 旗を下へ向ける：イン。

接地部分がすべて境界の外: 旗を真上に上げる：アウト。

受ける側のチームのタッチ後にアウト: 旗を上げ、空いている手のひらで先端に触れる：タッチ。

担当するアンテナやサービス境界の反則を確認: 頭上で旗を振り、該当するアンテナかラインを指す。

視界を遮られて判断できない: 両腕と両手を胸の前で上げて交差する。

## ラリー中の手順

判断時：はっきり合図して主審を見て、少し保ちます。求められたら繰り返します。ラリーの結論は審判が決めます。

見えない場合：音、選手、観客の反応から推測せず判定不能を示します。自分でやり直しを決めません。

サーバーのフットフォールトは打つ瞬間、ジャンプサーブなら踏み切り時に判断します。エンドライン、コート内、サービスゾーン外の床に触れれば反則です。正しく踏み切った後にコート内へ着地すること自体は反則ではありません。他のサービス担当も事前に確認してください。

## 判断の練習3例

1. ボールの一部がラインに触れた — 担当サイドライン近くに落ち、ボールの一部がラインに接地したのを見ました。インですか、アウトですか。 インです。ラインはコートに含まれます。旗を下へ向けます。ボールの大部分が内側に入る必要はありません。

2. ブロックに触れてからアウト — ネットを越えた攻撃が受ける側のブロッカーの手に触れ、そのチームのエンドライン外へ落ちました。両方が見えています。何を示しますか。 タッチです。触れずに出たアウトではなく、タッチの旗の合図を使います。攻撃側へ戻る別のケースとは区別します。

3. 選手に遮られて接地が見えない — 接地の瞬間に選手が視界を横切りました。周囲はアウトと叫びますが、自分には接地が見えません。どう示しますか。 判定不能です。両腕と両手を胸の前で交差させ、主審を見ます。推測せず、やり直しも自分では決めません。

## 休憩と終了

ラリー間は旗を戻し、注意を次へ向けます。選手を指導したり観客と議論したりしません。

タイムアウトとセット間は審判が指定した場所へ行き、呼びかけに応じられる状態でウォームアップを妨げないようにします。

セットや試合後も審判の指示まで離れません。旗を返し、次の担当前に疑問を確認します。

## 担当メモ（開始前に記入）

日付・試合：_____

規則・審判：_____

コーナー・担当ライン：_____

休憩場所・交代：_____

## 出典と対象

2026年10月28日確認：FIVB 8.3–8.4、12.4.3、29–30、図12。USAVインドア規則27、図12、ケース27.01。以下の現行公式資料を参照しています。

learnvolley.com/ja/how-to/line-judge